

第29回研究発表会を開催します

日時：平成27年1月22日(木) 13時30分～16時00分

場所：松江合同庁舎2階講堂(松江市東津田町1741-1)

入場は無料ですので、どうぞお気軽にご来場ください



宍道湖におけるアオコ発生環境要因とその事前判別 (保健環境科学研究所 水環境科 研究員 佐藤紗知子)

宍道湖では夏季に時折アオコが発生しています。どのような条件の時にアオコが発生するのかを過去のデータを解析し、明確にしました。その結果、アオコ発生の有無をアオコ発生の一ヶ月前に高確率で判別できることがわかりました。

島根県における高濃度PM2.5の発生要因について (保健環境科学研究所 大気環境科 研究員 船木大輔)

島根県は2013年度に一般大気環境測定局へのPM2.5質量濃度自動測定機の配備及び成分分析の体制構築を行い、本格的にPM2.5の常時監視を開始しました。今回は、高濃度のPM2.5が観測された日のPM2.5の質量及び成分(イオン成分、無機元素成分、炭素成分)の測定結果を中心に、高濃度になった要因も含め報告します。

島根原子力発電所UPZにおけるGe走行サーベイ ～緊急時モニタリングのためのバックグラウンド詳細調査～ (原子力環境センター 専門研究員 生田美抄夫)

福島第一原子力発電所の事故以降、発電所から概ね30kmにUPZ(緊急時防護措置を準備する区域)を設定することになりました。そこで、緊急時モニタリングでのバックグラウンド把握のため、島根原子力発電所UPZにおいてGe走行サーベイを実施し、人工放射性核種濃度マップを作成しました。

健康寿命の地域差に関連する要因を考察する (保健環境科学研究所 総務企画情報課 企画情報係長 小室俊子)

少子高齢社会をむかえ、健康で長寿である「健康寿命の延伸」が求められています。健康寿命を評価する指標の一つ「平均自立期間」の各都道府県の値と社会的要素も含む各種統計指標との関連から、島根県の健康寿命を延伸していくための要因を抽出しました。

島根県におけるリケッチア感染症の発生状況と特徴 (保健環境科学研究所 ウイルス科 主任研究員 三田哲朗)

島根県では、ほぼ毎年リケッチア感染症としてつつが虫病及び日本紅斑熱の患者報告があります。この2つの感染症はいずれもダニ媒介性の発疹を伴う熱性疾患で、4類感染症に指定されています。この2つの感染症について、本県における発生状況および特徴について報告します。

結核菌による集団感染事例における分子疫学解析 (保健環境科学研究所 細菌科 専門研究員 角森ヨシエ)

結核は、現在でも全国で1年間に約2万人の新規患者、約2千人の死者が発生しています。今回、島根県での結核発生状況と結核集団感染事例について遺伝子解析し感染源について考察した結果を報告します。

■問合せ先

島根県保健環境科学研究所(松江市西浜佐陀町582-1)

Tel : 0852-36-8181 Fax : 0852-36-8171

E-mail : hokanken@pref.shimane.lg.jp

